

2020年7月4日

学校法人三幸学園
大宮医療秘書専門学校
校長 増田 泰朗 殿

学校関係者評価委員会
委員長 佐藤 文明

学校関係者評価委員会実施報告

2019年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 佐藤 文明
(株式会社日本教育クリエイト さいたま支社 課長)
- ② 新井 祐一
(株式会社日本教育クリエイト さいたま支社)
- ③ 檜山 知世様 (第3期卒業生)
- ④ 山口 寛人様 (飛鳥未来きずな高等学校 進路担当)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2020年7月2日 (会場 大宮医療秘書専門学校 本館404教室)

3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以 上

2019年度 学校法人 三幸学園 大宮医療秘書専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者： 部門長代理 関根 利恵子

学校関係者評価報告責任者： 学校関係者評価委員会委員長 佐藤 文明

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

埼玉を始めとし、群馬県・栃木県・茨城県からの入学者も多いことから、「北関東を明るく元気にする」という目標を掲げ、医療従事者を目指す学生への指導を行った。

また、単位制運用の再周知にて、教員のみならず生徒や保護者に単位修得方法の理解や・浸透をすることにより教育効果を上げることとした。

② 学校関係者評価委員会コメント

(学校)

・県よっての違いなどはあるか。

(佐藤委員長)

・栃木県民は比較的閉鎖的な傾向があり、県外に出ることがあまりない。

(学校)

・実際に本校での就職も地元就職を希望する学生が多い。また、採用する側も地元志向の傾向があり、地元の方や地元の人材派遣会社から採用するケースが多いように感じる。

・埼玉出身の学生も都内にはあまり出たがらず、埼玉(地元)で就職をするケースが多い。

・地元で就職をする割合が多いので、地元就職をしやすいように学生の出勤地域に合わせて求人の確保をする必要がある。

(樫山委員)

・在学中も実家から通う同級生が多く、就職を機に都内に出る等、県外に出る同級生は少なかった。その理由として、一人暮らしと仕事という2つの事を同時に始めることに不安があることや、金銭的な問題があげられていた。

(山口委員)

・高校に関しては就職よりも進学希望者が多く、進学は地元でもいいが就職は都内でしたい高校生が多い。しかし、高校生の場合はまだ一人暮らしなどで必要な費用など、具体的なイメージが湧いていない中で何となく都内に出たいと言っている可能性も高い。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・理念や目的、目標とすべき人物像の設定はできているものの、入学直後のプログラムで伝えた後は行事の際に提示する等の単発で伝えていくことが多くっており、十分な浸透まではできていない。

② 今後の改善方策

- ・生徒へは行事等、行事自体への動機づけに合わせて行事の目的を示す際の材料として学校の理念や教育の目的を伝えることでイメージしやすく、効果的な動機付け、意識付けを行っていく。
- ・保護者へは、定期的に学校から送る郵送物を活用し、周知して頂く機会を作る。
- ・担任だけでなく、教科に関わる教員からも積極的に意識ができるような促しをしていく。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(学校)

・高校では、高校生に進学先を紹介する場合、その学校の教育理念などまで説明しているか？

(山口委員)

・高校生や保護者が進学先の情報として気にしているのは、学べる内容や学費などであることがほとんどのため、進学先の学校が定めている教育理念までのところを浸透されるには至っていない。

(学校)

- ・保護者や本人にも説明できていない中で、入学前にどのように浸透させていくかが課題。
- ・現在は様々な発信ツールがあるため、それらを介して継続的に発信し浸透していく。

(榎山委員)

・入学後、教育理念は入学直後に実施する研修の中で学ぶが、時間の経過とともに忘れてしまっていた。担任の先生にホームルームなどで話をされ、再確認することが多かった。

(学校)

・今年度はコロナウイルスの影響で行事などがほとんど実施できない状況になってしまったため、行事に頼らず学校生活の中で三幸学園が目指す生徒の育成像を伝え、浸透していく必要がある。

・教育理念や生徒の育成像といった言葉を覚えさせるのではなく、その言葉と同等の育成が出来ているように教育の中で工夫していく。

(山口委員)今年度はコロナウイルスの影響もあり、新任の先生方にも周知が難しかったと思うが教員にはどのように教育方針を伝えたか。

(学校)

新任の先生向けのオンデマンド教材を作成し、三幸学園の教育理念や大切にしている事を伝えた後、現在授業を行ってもらっている。

(2)学校運営

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・生徒への情報発信ツール(Sanko Gate)は存在するものの、ホームルームの時間を有効に活用する事や生徒自身が自ら情報を得るために行動させるためなど、本来このツールを導入した目的の達成には至っていない。

② 今後の改善方策

・新型コロナウイルスの影響により、情報発信ツールを使用せざるを得ない状況になったため、教員も生徒も例年に比べて大幅に使用頻度が上がった。今後は更にツールを活用することで、情報を効率的に発信し、生徒たちも自ら必要な情報を得る事が出来る環境を整え続け、自ら行動できる生徒育成の一端になるように活用していきたい。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(山口委員)

・飛鳥未来きずな高校も今年度から学内の情報発信ツールを導入したが、まだ学生自身がその必要性を感じられていない。また、教員もまだ使いこなせていない部分があるため、もっと有効活用していきたい。

・飛鳥未来きずな高校では情報発信ツールを保護者の方も専用IDでログインし、閲覧できるようになっている。

(学校)

・専門学校は学生が主体となって情報を獲得する習慣を身に付けるツールとして活用しているため、保護者は閲覧できないようになっている。

(新井委員)

・クリエイト(医療事務派遣会社)では、登録されている方々への情報発信としては求人情報やアンケートのご案内が中心になるため、専用の情報発信ツールは使用していない。また、必ず見てほしいという情報を発信することもほとんどない。

(学校)

・専門学校において現在は、Sanko Gate を見なくてもホームルームで伝達や教室への掲示があると学生自身も思っているため、自ら Sanko Gate にログインして情報を得る必要性を感じていない。しかし、Sanko Gate を有効活用する事で他にも出来る事が多くなり、教育効果を上げる事が出来るため、より活発に使用していきたい。

(榎山委員)

・在学当時はうさぎノートという情報発信ツールだったが、あまり活用しておらず、HR での伝達で事が足りていることがほとんどだったため、自らうさぎノートを見る事もほとんどなかった。受診の通知も来ず、アップされている画像も荒い等が原因だったように思う。

(学校)

・現在、双方向で授業を行っているが、授業の途中で通信が切れてしまい授業が受けられなかった学生が本来ならば録画を見るのだが、Sanko Gate を見忘れてしまい、授業動画の有効期限が切れてしまった、ということがあった。重要なものでも確認しない学生もいるため、今後さらに Sanko Gate を習慣的に見るように促しをしていくことと、習慣的に見るような工夫をしながら有効活用していきたい。

(3)教育活動

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4

人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・2019年度入学生より導入されているカリキュラムで、より実践的な知識や技術を身に付ける授業の展開が可能になった。しかし、まだ現場で必要とされる実例に基づいた対応力まで情報収集が十分ではない。
- ・生徒に実践的授業の必要性を今以上に感じてもらう授業展開を行っていく。

② 今後の改善方策

- ・実習先や就職先など、繋がりのある医療機関へのヒアリングを重ねて蓄積し、授業内ではその内容を反映することで現場起こりえる実例に基づいた対応力を学ぶことが出来る機会を構築していく。
- ・臨機応変な対応力を身に付けることがいかに即戦力になるかを継続的に伝えていく。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(山口委員)

- ・昨年度、職員向けの研修ではどのような内容を行ったか。

(学校)

- ・昨年度の研修では、実習生の受入や就職での採用、また学校のカリキュラムを検討する委員会などでも連携をしている医療機関の方にお越しいただいた。その中のお話として、実習生に感想を書かせた際など、文章力が不足しているのご指摘をいただいた。カリキュラムの変更に伴い、一般教養の授業も入ってきたため、授業でもフォローも行っていく。

(山口委員)

- ・今年度、多くの行事が実施できない状況だが今後行事に代わり教育効果のある機会は検討しているか。

(学校)

- ・学校が再開したばかりの為、現時点では検討できていないが、今まで行事に頼っていた成長の機会を通常の学校生活の中で得るためにはどうしたら良いかを今後検討していく。

- ・事務系を志望している高校生はどんなことを意識して学校選びをしているか？

(山口委員)

- ・事務系の志望者に限らず、資格の取得率と就職率の高さは必ず確認している。その他、立地やカリキュラムの内容でどんな事を学べるのかを確認している。

(学校)高校で卒業生を招いて進学先のこと、決めた理由などを話してもらうような機会はあるか？

(山口委員)企画は挙がっているが開催には至っていない。今後、開催に向けて計画をしていく予定である。

(学校)人材派遣会社として、登録している方向けに研修を実施することはあるか？

(佐藤委員長)人材派遣会社から研修をすることはあまりない。

(山口委員)授業評価はどのように実施されているか？

(学校)年に2回、授業アンケートを実施している。その結果をもとに各教科担当の先生方にフィードバックを行い、より良い授業展開への工夫をご依頼している。

(新井委員)新型コロナウイルスの影響が出ていると思うが、今年度の実習はどのように実施する予定か？

(学校)

例年は全員が必須として1年生で1週間、2年生で3週間の実習に行かせて頂いているが、今年度は基本的に希望制で行う。1年生はほぼ希望しているが、2年生はほぼ志望しておらず、1年次の実習で実習の必要性をしっかりと落とし込めていなかったことが課題と考えられる。今年度の1年生には、1週間で医療従事者になるための意識も含めて必要性を学んでもらえるように働きかけていきたい。

(学校)人材派遣の業界も採用や受入れに変化が表れているか？

(佐藤委員長)

大きく変化している。現在、求職者が増加しており、「こういう時だからこそ、医療機関で働きたい」という方もいればコロナの影響で失業してしまい、「安定の医療機関で働きたい」という方もいる。受入れの状況は医療機関・施設で判断基準はまちまちである。

(学校)

・“医療は安定している”という世間のイメージはあるが、コロナの影響で受診を規制する等で病院自体が経営難になることもあるかもしれない。そういった部分も学生には伝えていかなければいけない。

(4)学修成果

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

・1年次在学中には退学を検討する生徒がおり、その理由はイメージとのギャップによる目標喪失、生活習慣・通学習慣の改善が見られず、モチベーションの低下などがあげられた。

② 今後の改善方策

・様々な理由があるが、入学後のフォローとして教員からの声かけやスクールカウンセラーの活用、また保護者との連携を図ることで学校に足が向くような環境を作っていく。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(学校)

・全日制高校からの進学者より、通信制高校からの進学者の方が学校生活について心配なところもある。

・通信制高校では、進学先への在籍状況などを行っているか？

(山口委員)

高校でも進学後の退学は懸念している点の1つである。高校としても進学先(姉妹校)で学べる内容やこういった業界に進めるなど、進学するメリットを多く伝えてしまっており、大変な事が伝えきれていないと感じている。その為、メリットのイメージを持って進学してしまったために高校生活とのギャップを感じてしまい、退学に繋がってしまったケースもある。

(学校)

・通信制高校を卒業した生徒は大人数が苦手であったり、毎日登校するという習慣がない生徒もいる。18歳人口は減っているが、通信制高校に進学(在学)する生徒は増えている。メディアでいつでも授業が受けられるなど通信制高校出身の生徒たちでも学びの機会を得られる対応や、専門学校によっては通信制高校出身の学生のクラスを作っているところもあるため、そのような対応を考えいくことも今後は必要だと感じる。

(佐藤委員長)

・人材派遣会社では求職者が通信制高校を卒業しているかなどの確認はしない。どちらかというと前職の確認をする。

(学校)

・今年度は就職ガイダンスを行うことが難しいため、卒業対象者全員に一度に就職に向けた対策をやるというよりはエリア毎に対策を行っていくなどしなければいけない。例年は少しずつ内定が出始める時期だが、今年度はまだ内定者が出ていないため早急に対応をする。

(新井委員)

・人材派遣業界でも医療に関しては新規の求人はかなり減っている。当社でも医療事務より看護助手の求人を確保することを優先している。

(学校)

・業界に限らず全ての分野で全国的に求人が少なくなっているため、ライバルが医療系の専門学生だけに限らず大学生や短大生なども入ってくる。そこで内定を勝ち取れる学生を育てなければいけない。

・例年、求人をいただいても受験者がいないという事があるが、今年度については求人を有効的に学生に斡旋していく必要がある。

・学生のみならず、教員も危機感をもって対応しなければならない。

(5)学生支援

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4

中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

・中途退学をしてしまった生徒への支援体制は十分ではないが、(4)の項目でもあげたようにまずは中途退学をしない環境づくりが課題であると考えます。

② 今後の改善方策

・中途退学をしてしまう生徒に対しても、今後の就職活動などで支援が必要な場合には必要な情報が得られるようにホームページの活用などで情報の提供をしていく。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(学校)

・学生への支援として、今年度は新型コロナウイルスによる影響を受けている生徒もいるため学園全体で一人3万円の修学支援金を現金支給している。

・その他、家計急変者へは日本学生支援機構の基準に沿って学園独自の支援も実施している。

・退学者への支援は十分にできていないため、今後退学に至ってしまった際にはホームページなどで学校に来ている求人が閲覧できるなどの案内をしていく。

(山口委員)

・飛鳥未来きずな高校で行っている『キャリア教育科目』(姉妹校の専門学校にある分野の授業を体験で受けることが出来る授業)の授業が楽しかったからという理由で姉妹校に進学する生徒もいる。しかし、“楽しかったから”という動機から入学しているため、入学後に業界の厳しさ勉強の深さに付いていけずギャップを感じてしまい、退学に至ってしまうことがある。

(学校)

・授業を担当してもらっている教員からも授業の中でギャップを埋めるような話しながら、進学をしても退学にならないように対策をとっていく必要がある。

(6)教育環境

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・実践授業を実施する際には実技教室を使用しているが、生徒数に対してのスペースを今よりも確保することでより効率的・効果的な授業展開を実施できるように検討する。

② 今後の改善方策

- ・姉妹校の新校舎完成に伴い、実習室の活用を検討していく。
- ・備品は揃っているため、教室稼働の工夫により広い教室での授業実施を検討していく。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(学校)

・昨年度の初めに校舎にWi-Fiが設置されたため、教員がインターネットの画像を授業中に活用するなど、視覚的に学べる授業展開が可能になり、大きなプラスとなっている。また、授業アンケートを始めとする各種アンケートなどもWi-Fiを使用して実施できるようになったため、効率が上がった。

(桜山委員)

・在学中は授業が座学ばかりだったため、今回カリキュラム変更で実践的な授業が増えたことはとても羨ましく思う。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・オープンキャンパス時に学校生活や学びの仕組みについて説明をしており、入学直前の時期にも生徒・保護者に向けて教育成果について話をしているが、どの程度まで理解していただけているかの効果測定は今後の課題となる。

② 今後の改善方策

- ・現状の適切な対応を保ちつつ、本人・保護者が入学後にギャップを感じないよう、入学前に学校生活や学びについての理解をして頂けるように視覚的な資料を活用しながら理解を深めて頂けるように工夫する。
- ・本校へ通学する中で教育の成果を実感して頂けるよう、学校生活でのフォローも行っていく。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(学校)現在、オンラインオープンキャンパスを多く実施していたが、高校でも進路指導としてオンラインオープンキャンパスへの促しを行っているか？

(山口委員)オンラインオープンキャンパスへの促しを中心に行っていたが、現在は高校生も実際に進学希望先に足を運んでオープンキャンパスに参加をしている。東京に行くなども特に抵抗はない様子。

(学校)今年度も入試は通常通りだが、一部オンラインでも対応していく。またオンラインでのAO面談も導入しており、来校しての面談と合わせて進めていく。

(佐藤委員長)今後、VRでのオープンキャンパスの予定などはないか？

(学校)

・現時点でVRの予定はないが、360度カメラを使用してホームページの中で校舎が見て回れるようなものは導入を計画している。

・人材派遣会社では、求人を出す際に他社との違いをどのようにアピールしているのか？

(新井委員)

視覚で分かりやすいように打ち出すことや、業界によって好まれる出し方が異なるため、その分野によつての工夫と、目に留まるキャッチコピーに力を入れている。

(8)財務

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

【委員コメント】

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・各課題に対し、対応できているものもあるが、対応が十分にできていない点もある。すぐに改善できるものには着手できているが、中長期的な期間を有するものについては計画を立てて対応していくことが課題。

② 今後の改善方策

- ・すぐに対応可能なものは継続的に随時改善を行っていく。
- ・中長期的な期間が必要な課題については、計画を立てて対応していく。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・産学連携の取り組みを実施したいと考えており、さいたま市との連携も取っているもののボランティア派遣にまでは至っていない。また、その他にも地域への貢献活動も実施のできていないため、企画・実施をしていくことが課題。

② 今後の改善方策

・産学連携を視野に入れ、生徒たちが社会に出るために必要な経験ができる機会の提供を幅広い観点から検討していく。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(山口委員)

・飛鳥未来きずな高校では、地域貢献という意味で清掃祭という、清掃をお祭りにしたものを半期に一回行っている。

(学校)

・産学連携を業界に縛らず、ボランティアや地域貢献など原点回帰の視点で取り組みを検討していきたい。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

・留学生の受け入れ実績がなく、入学時の対応が十分にできる環境にはなっていない。

・留学生の受け入れ自体は問題なくできるが、医療事務の仕事では就労ビザが取得できない旨も説明したうえで入学を検討して頂く必要があるのが現状である。

② 今後の改善方策

・卒業後のビザなどの事も理解いただいたうえで入学を希望して頂ける留学生においては、滞りのない学校生活を送ってもらうための基本的な体制を整えていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(学校)

・美容分野や調理分野は日本で学んだ技術をもって母国に帰ることができるが、医療校の分野は日本独自の制度になるため母国で資格を活かして働くことができないという特性がある。介護系の学科があれば、留学生を受け入れていくことも可能だが、医療事務になると日本で仕事をするを前提として知識を学ぶため、就労ビザとの関係が切り離せない状況である。

・就労ビザの状況を把握したうえで学びの機会をと希望頂ける留学生の方には、ある程度日本語ができる(教科書が読める等)ようであれば受け入れ自体は可能である。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(学校)高校として、専門学校にこのような情報がもらえたら良い等あるか？

(山口委員)進学後の状況、情報を定期的(半期に一回程度)にももらえると嬉しい。

(学校)在学中、こうだったら良かったという事はあるか？

(桜山委員)就職ガイダンスを実施する際には卒業生をもっと有効活用してもらいたい。在学中のガイダンスでは、質問をしたいが人数が多い中で手を挙げる事や、自分だけがたくさん質問することに抵抗があった。エリアガイダンスなど、少人数で対応する機会が増えるのであれば、質問しやすい環境になるため、より卒業生から話が聞きやすいと思う。

(学校)現場に残材を派遣する立場として、こんな力があると良いという点はどんなことか？

(佐藤委員長)最終的にはコミュニケーション能力が重要。資格や能力も必要ではあるが、対人になるため、その対面する方とのコミュニケーションが十分に取れるかが重要。

・学校ともっと連携を取っていけると良い。

(学校)

本日はそれぞれの立場からのご意見を伺うことができたため、改めて専門学校の役割を全うすべく、改善できるところから進めていきたい。また、高校の先生方との連携や学生たちが卒業後に進んでいく業界との連携の重要性も改めて感じたため、より密な情報共有や繋がりを持つことで学生へ還元していける環境を構築していきたい。引き続き、ご協力をお願いしたい。